

勝林寺寺報

「縁起」と「業」(げい)、「縁起」と「業」(げい)、「縁起」と「業」(げい)、お釈迦さまは「縁起」をさとり、「業」を説いた。しかし如来さまの真意でありながら、「誤解」して伝わっているものが多くあります。

「因縁」。古くからある輪廻転生(リンネテンショウ)と結びついて「親の因果が子にむくい」・「善因樂果・惡因苦果」など倫理的解釈が横行しています。日本の祖先觀。家柄・血筋など差別觀念の元ともなっています。お釈迦さまは深刻に「わたしの今の現実」を問うたのです。「いま。ここに。こう生きている私は何か」。こたえは日本語で云えば「ありがとう」です。いまこの私がこう生きているのはどうしてか。答えは「並なことではありません。一つや二つの原因ではなく無量あまたの力に支えられ、あるいはいいのちを生かされているのです。今までそうであったように、これからもそんないのちを生きていくのです。」という生命の実感。

「業(げい)」

業ということばはサンスクリット(古いインドのことば)ではカルマン。意味として造作・行為など。これもインドの古い輪廻思想と結び付き倫理的解釈がなされ「惑・業・苦」などあたかも仏教の根本理論のように伝えられていますが、本来は今この私の苦惱迷妄のありようを問題にしているのです。自他を分け分けに対立的にしか見えない(無明)。しかも自分私にこだわり、他と競い争い、また踏み付け・差別して「われひとりよし」とするわたしのいまのこの生きざまをごまかさず直視しようという親鸞さまの人間観。時代観。「正・像・末和讃」こそお釈迦さまの真意です。

お寺とこども

町内に二ヶ寺の真宗寺院があつた。そのうち小さい方の寺が勝林寺で、こどもの遊び場だった。(寺の中の子供のわたしには毎朝お勤めやお説教の稽古で厳しい場所だったが)本堂の床下。ここは「隠れんぼう」に持つて来いの場所。いろんな隠れ場所があつた。姫様から下賜されたお籠(これは葬儀のとき使われていたが)そんな雑多なものがあつたから遊び場・隠ればに最適なところだった。また、男の子の作業場で、冬には竹スキーや橇(そり)も大勢寄つて作つた。戦いのための刀・剣、紙鉄砲、杉鉄砲。(寺の門前の登記所には長い杉垣があつて豊かに杉の実がなた)。それとここは「子供の参謀本部」。すべての悪だくみはここから作られていた。

お寺のなかは大広間。銘々自分の木の小机を作つてもらつて、夏休み自主的に寺子屋が開設された。堂のお縁は広かつたので、女の子はお手玉・おはじき・綾取り・縄跳びもできた。学校では習わない大正ロマン時代の歌「キンダー・ブック」「少女クラブ」など持ち寄つて読み合つていた。寺の庭の鐘楼も日当たりがよくてそこで日なたぼっこがてら歌をうたつたり絵を描いたり、また流行の「日光写真」などもした。

お寺の境内には梅・アンズ・柿・栗・枇杷・スモモ。などの大きな木があつて四季折々、気ままに木によじ登つてとつて食べられた。お寺の周辺の野や畑にも、「ゆすらんめ。グミ・小梅。」などなど一杯。「桑の実」をいっぱいエプロンポケットに取り込んで叱られました。また「スイスイぐさ」。あまりおいしくないが「なづめのき」には鈴なりの実が花のようについて、上つて採るのが楽しくてワイワイ囁しながら探つて遊んだ。

そのころオヤツは「はつたい粉」。湯でとしたり練つたり。粉のままだと笑つた途端、粉が飛び散る。それが面白くてわざとわらわかたりしてあそんだ。

十一月 勝林寺 予定

一日(土)	初田一三宅 納骨
二日(日)	小田 報恩講(托鉢)
二日(日)	斎藤節夫宅 七回忌
二日(日)	第二回 法要委員会
三日(月)	兵庫教区実践運動常任委員会
三日(月)	出石但東仏教会 三役会
四日(火)	小田 報恩講
四日(火)	斎藤義明宅 一七回忌
五日(水)	小田 報恩講
六日(木)	太田・東里 報恩講
七日(金)	唐川 報恩講
八日(土)	合同役員会
九日(日)	出合 報恩講(総仏講)
一一日(火)	市場 報恩講
一二日(木)	野尻・矢根 報恩講
一三日(木)	兵庫教区 ブロシク別公聴会
一四日(金)	矢根 報恩講
一五日(土)	坂本剛志宅 七回忌
一七日(月)	口小谷 報恩講
一八日(火)	暮坂 報恩講
一九日(水)	丸中・片岡 報恩講
二〇日(木)	百合・桐野・寺坂・日辺 報恩講

二二日(金) 鉢山・豊岡 報恩講

二三日(土) 小谷 報恩講(総仏講)

二四日(月) 出石組 連研反省会

二六日(水) みのりを聞く会

七時半より

二七日(木) 勝林寺 餅つき
(敬称略)

三一日(月) 除夜会

七時半より

除夜会の内

日時 平成二十四年一一月三十一日

午後十一時より本堂で勤行
並びに境内で、甘酒・雑煮・
ぜんざいなどの振る舞い

午後十一時二十分ごろより
除夜の鐘つき



修正会の内

日時 平成二十五年一月一日

午前〇時より本堂で勤行
並びに住職の法話

お待ちちています

